

# 今後の活動に望む

岳連理事長 石井謙一郎

もう随分と古い事になってしま

ったが、私が総会へ海外登山を提

案した時は、正直に云って若い

人達に突き上げられて、大変なこ

とを始めてしまったものだ不安

で一杯だった。そして計画が具体

化するまでの一時期は確かにもた

たしていたが、一旦軌道にのり

だすと資金の問題、人員の問題、

その他山積された諸問題も次々と

解決され遠征隊を無事送り出すこ

とが出来た。松井隊員の犠牲、登

頂の断念と云う結果には終った

が、ネパールの関係者が、群馬隊

を高く評価し、又非常な好感を持

つてくれている事を、私は昨年の

ネパールの旅を通じて直接肌感

して来た。又ある在留邦人は「近

年の珍らしい遠征隊らしい遠征隊で

あった」と賞讃してくれた。群

馬ヒマラヤ登山隊はこの意味では

成功だったと我我慢をぬきにして

私は思う。そして群馬県連も意外

な力が出せるものだ改めて認識

だけに、そのひたむきの勉強態度

を高く評価されるべきで、大きな

成果があるものと確信している。

指導員会の各種の講習会、研修会

も回を重ねるにつれて工夫、研究

されて、指導体系も着々と整備さ

れつつある。一昨年企画されたた

ま集現の運びにならなかった岳連

報も「嶺呂」と命名されて、その

第一号が発行出来た。その他国体

登山の好成績等々、列挙にいとま

がないが総じて岳連内部の活動は

活発で充実して来たと思われ嬉し

い次第であって、諸兄の努力に深

く感謝する。

しかしながら、連休や安全登山

の日における谷川岳・パトリール

尾瀬のゴミ持ち帰り運動等、事業

には参加しているものの、その内

容はマンネリ化してしまい再検討

をしなければならないいくつかの

問題も残されている。

さて本年の新しい方向として、

岳連加盟以外の登山者に対する指

導を積極的に推進したい。昨年も

こした場合の責任はあまりにも大

きい。吾々も社会の一員である以

上、その責任から生ずるある程度

の社会的制約は当然受けなければ

ならないもので、その制約と、自

由に登山したいという意志の接点

を見出す必要があろう。そこをど

こに求めるかは、現役リーダー層

の討論によって結論づける必要が

ある。

本年も前途に大きな問題をかか

えているが、あのデウラギリの時

に示した強い岳連の力を引き出し

たいものである。

嶺呂とは、万葉集の中に出てく

る言葉で、嶺は、山々・峰々の意

味で、呂は親愛・感動の念をこめ

て使う接尾語です。万葉集、上毛

野国の歌の中に、「久呂保の嶺呂」

（赤城山）とか、「伊香保の嶺呂」

（榛名山）などという風に使用さ

れており、群馬岳連の会報の名に

ふさわしいものと思います。命名

者は浜名会長です。

久呂保の嶺呂は現在の赤城山の

ことで、クロホのクロは山頂付近

の黒々とした針葉樹林が遠望され

るところから、ホは高くそびえた

つ様子を言う言葉です。伊香保の

嶺呂のイカホは、いかつい高い山

即ち国の中央に大きな山々がそび

えたっている様子を表わしていま

す。いずれも麓の人々が親愛をこ

めて呼んでいたようです。

上信越県境の連山には、既に

冬將軍襲来の前ぶれとしての冷

たい風が訪れていた。平野から

遠く眺めると、耳二つに吹

きつける谷風の音が聞こえるよ

うな錯覚をおこす頃となってい

った。而しこの静けさこそ高塚

さんには激越な語音の響きはな

かった。高塚さんは、健康は人生を左

右するもの、スポーツは人間の

生きゆく力であることを、真に

知っていたのである。だからこ

そあのようにスポーツの中に明

るく潜れきって生きたらたので

あって、何等の代償をも求めな

かったのである。いま私は社会

体育の奉仕者であった高塚さん

の生涯を偲び、静かに冥福を祈

るばかりである。

これを更に延長・拡大して、登

山に対する姿勢・計画・その他に

ついて、リーダー層を中心とした

討論する場が欲しいと思うのであ

めて呼んでいたようです。

高塚さんは昭和九年渋川岳協会

大衆を誘導し、市の体育協会長と

の日までこれまた十五年に及んで

いるのである。このように一筋の

道を貫くこと通算四十年に達する

得難い指導者であった。更に渋川

市の歩こう会会員の先頭に立つて

大衆を誘導し、市の体育協会長と

の日までこれまた十五年に及んで

いるのである。このように一筋の

道を貫くこと通算四十年に達する

得難い指導者であった。更に渋川

市の歩こう会会員の先頭に立つて

大衆を誘導し、市の体育協会長と

の日までこれまた十五年に及んで

いるのである。このように一筋の

道を貫くこと通算四十年に達する

得難い指導者であった。更に渋川

市の歩こう会会員の先頭に立つて

大衆を誘導し、市の体育協会長と

の日までこれまた十五年に及んで

いるのである。このように一筋の

道を貫くこと通算四十年に達する

得難い指導者であった。更に渋川

市の歩こう会会員の先頭に立つて

大衆を誘導し、市の体育協会長と

の日までこれまた十五年に及んで

いるのである。このように一筋の

道を貫くこと通算四十年に達する

得難い指導者であった。更に渋川

の日までこれまた十五年に及んで

いるのである。このように一筋の

道を貫くこと通算四十年に達する

得難い指導者であった。更に渋川

市の歩こう会会員の先頭に立つて

大衆を誘導し、市の体育協会長と

の日までこれまた十五年に及んで

いるのである。このように一筋の

道を貫くこと通算四十年に達する

得難い指導者であった。更に渋川

日山協補助事業

市民登山教室報告

県岳連では、日山協の「一般登山者に対する啓蒙活動」の一つとして計画された「登山教室と映画の会」・「登山実技講習会」の前者にあたるもので、後者については、別稿として報告してあります。

本県では、本年度は、前橋・高崎・太田を会場として行なわれ、該当地区の山岳会がその任にあたった。なおこの行事は、日本船舶振興会からの補助金を受けて実施された。

前橋会場 中央公民館  
十一月九日  
登山全般について 赤石 春親  
登山と自然保護 富山 真  
歩行技術 高田 政美  
生活技術 中原 正喜  
ヒマラヤこぼれ話 八木原園明  
十一月十日  
医学について 田中 壮信  
登山と天気 大谷 清  
登山計画 太田 忠行  
登山装備について 石井謙一郎  
映画「白馬から剣へ」 十一月十一日  
地図の見方 倅田 正也  
救急対策 田中 成幸  
映画「五百人目の遭難者」 太田 忠行  
太田会場 市民会館  
十一月二十七日  
登山について 赤石 春親  
登山について 石井謙一郎

十一月二十七日  
登山について 赤石 春親  
登山について 石井謙一郎

赤石 春親  
石井謙一郎



十一月二十八日  
天気図と地図 倅田 正也  
緊急対策について 田中 成幸  
十一月二十九日  
山の医学について 関 章司  
映画「カラコルムへの旅」  
「白馬から剣へ」  
「五百人目の遭難者」  
十一月四日  
登山全般について 赤石 春親  
登山計画について 太田 忠行  
地図の見方 倅田 正也  
歩行技術 高田 政美  
山の天気について 大谷 清  
十一月五日  
緊急対策 田中 成幸  
山の医学(救急) 田中 壮信  
映画「夏山入門」  
「五百人目の遭難者」  
各会場とも四〇一六〇名の参加者があり、熱心に耳をかたむけていたようだ。アンケートの結果でも、「参加してよかった」「今後もこのような講座を希望する」などと、概して好評であった。尚、開催時期については、三・四月を望む声が多かった。今後は資料をととのえ、配布することが必要であろう。

報告 倅田 正也

日山協補助事業

実技講習会報告



実技講習風景

予定時間近く、天候も悪化してきたので、各テントの中に散り、まとめのミーティングを行ない、無事日程を終えた。県岳連としても今後、こういう一般登山者に対する啓蒙活動も大切だと思われるし、また参加者、特に高校生にとつては、日常の顧問やOBから教わるのとちがつて、新鮮な指導を受けたとの印象が強いようだ。こうした行事が正しい登山の普及にもつながり、底辺の拡大にも役立つのではないだろうか。

参加した指導員の氏名  
石井・田中・太田・細谷・布施・中原・堀江・高田・桜井・阪本・塚越・下平・浅野・石川・諏訪・大沢・雲野・倅田・尚、本講習会は、日本船舶振興会の補助事業の一つです。

報告 倅田 正也

冬山合宿

検討会開く

期日 十二月十日  
場所 前橋体育協会館  
参加者 十六団体 四十名

「北鎌地区」  
○太田 生田 C・L 以下七名  
十二月二十八日・一月五日  
○伊勢崎 福田 C・L 以下十二名  
十二月二十九日・一月四日  
「上州武蔵山」  
○岳友会 吉沢 C・L 以下一名  
十二月三十一日・一月三日  
○境町山の会 大橋 C・L 以下五名  
十二月三十一日・一月四日  
「穂高地区」  
○沼田 木内 C・L 以下十二名  
十二月三十一日・一月四日

広告募集



「巻機山・丹後地区」  
○富士重工 洪沢 C・L 以下六名  
十二月二十九日・一月五日  
「八ツ岳地区」  
○登高会 佐藤 C・L 以下八名  
十二月二十九日・一月四日  
「谷川岳地区」  
○鶴翔山岳会 石川 C・L 以下五名  
十二月三十一日・一月六日  
「木曾ヶ岳地区」  
○むすびの会 武井 C・L 以下七名  
十二月三十一日・一月三日  
尚予備日を各山岳会とも二・三日とっており、下山したなら、西山遭難対策委員長迄連絡することを申し合せた。各山岳団体の成功を祈る。

連絡部 加藤 藤夫

額 4,000円  
金 7/1  
法 14/1  
B 5  
但し凸・写真代は別  
連絡先 371  
〒 前橋市上佐鳥町1499の3  
TEL (0272) 650 453  
太 田 忠 行

# インドヒマラヤ登山隊報告

## 伊勢崎山岳会

冒険を借りて今回の登山に御協力援助をいただきました事を御礼申し上げます。又現地に不慣れのため連絡の手落等御心配をおかけしましたことを御詫言申し上げます。

四月二十九日、我々はインド山岳団に許可申請計画書を発送した。この段階が実質的な第一歩であった。というのはこの時点でメンバーは父母、女房子供の不幸があつても脱落が出来ない事の裏約が出来て、やつと四人が集まつたのである。裏約の意味はそこにあつた。五月二十六日一通の封筒がIMFから届いた。我々の計画が審査されているとの報告あり一喜一憂であつた。七月に入りトラシシーバーの輸入使用許可申請書が届くが難解でこれには手をあげてしまふ様な出来事と、書ける場所だけ書き投函した。併し未だ登山許可が降りず次第に焦つてきた。酒でも飲まない夜が長すぎる日々が続く度々国際電話で請求した。併し弱つた事に内容は神戸商大隊に許可が下りているデントヒークに我々も許可されたとの事であつた。急ぎ神戸商大隊に連絡をとり登頂した場合には双方とも初登頂にすると云う様な約束をとり

外国の登山はもとより、観光旅行もした者も無い我々は、はしやいど危険性を多少なりとも減少

間の空の旅を終え、午後十一時三十分に、ニューデリーに着いた。そこは、名にしようインド税関である。陸揚証明書を取らない過去

日本人の世話をほとんどしている大の親日家との事であり、いっそう会議を盛り上げさせた。

で試みられたオリエンテーリングは実施されなかったが、各ポイントで護国力の評価がなされた。内容は現在地点の確認と、山の名称及び概念図の記述で、一人指名された代表が出て用紙に解答するという方法がとられた。この中で概念図については、当日行動したコースの概念図の他に明日の予定コースの概念図を書かせるという事前研究に関する質問も含まれていた。その他に記録の提出があり、この面でも評価された。

### ヒンズークシュ・カラコルム会議報告

#### 一、期日

昭和四十九年十一月九日、十日の二日間

#### 二、場所

金沢ヘルスセンター  
石川県金沢市東御影二八八

今年度の会議は、第六回となり、金沢市にて開かれました。特に今年にはカラコルム解禁となつたため、日本からも数隊が入り、いくつかの成果をおさめ、又共に最新の情報を持ち帰りました。

一、特別講演「西域の虎」  
金沢大学教授 川口 久雄

二、各国登山隊情報 吉沢 一郎

三、一九七四年度登山報告

#### 講師

吉沢 一郎

四、映画「バゲツクシャン」

五、本年度以降の山行予定発表

六、質疑応答

四、本年度以降の山行予定発表

五、質疑応答

六、本年度以降の山行予定発表

七、質疑応答

五、質疑応答

六、本年度以降の山行予定発表

七、質疑応答

八、本年度以降の山行予定発表

六、本年度以降の山行予定発表

七、質疑応答

八、本年度以降の山行予定発表

九、質疑応答

七、質疑応答

八、本年度以降の山行予定発表

九、質疑応答

十、本年度以降の山行予定発表

八、本年度以降の山行予定発表

九、質疑応答

十、本年度以降の山行予定発表

十一、質疑応答

九、質疑応答

十、本年度以降の山行予定発表

十一、質疑応答

十二、本年度以降の山行予定発表

十、本年度以降の山行予定発表

十一、質疑応答

十二、本年度以降の山行予定発表

十三、質疑応答

十一、質疑応答

十二、本年度以降の山行予定発表

十三、質疑応答

十四、本年度以降の山行予定発表

十二、本年度以降の山行予定発表

十三、質疑応答

十四、本年度以降の山行予定発表

十五、質疑応答

十三、質疑応答

十四、本年度以降の山行予定発表

十五、質疑応答

十六、本年度以降の山行予定発表

十四、本年度以降の山行予定発表

十五、質疑応答

十六、本年度以降の山行予定発表

十七、質疑応答

# ヨーロッパへ

ミヤマ山岳会 千木良 一 郎

を登る機会の少なかった僕などは、大変なものでした。ちなみに、五級のフェースよりも四級のクラックの方が難かしく思えました。キャピサン東壁で、僕等の前をドイツ人パーティーが登っていたのですが、彼等はほとんどのビンにランニングクレイを取り登っていました。それを見て僕等は「あんなにビンにザイルを通したら伸びが悪くなるじゃないか」と言っていたのですが、そのすぐ後に僕は身をもってその理由を思い知らされました。僕は日本でも岩場の一角には日本人部属が出来ており、まるで渾沢にでもいる様な気分になってしまいます。

運動具店で不足な道具を買ひ揃え、ガイヤンの岩場、メールド・グラス氷河で軽く足慣らしをして、現地のクライマーの間にしつかりしたモラルが確立され、それが守られていたからだと思います。特にポルトに対しては相当厳しいものがある様に思いました。この夏に日帰りが出来、又向かいのシャモニー針峰峰の概念がある程度つかめるので、多くの日本人がトレーニングを兼ねて登っている様です。

そして次に、ツールロンドの北壁に出かけました。これは高度差五百メートル、傾度五十五度六十度位の氷壁ですが、近くにモンモティ、フレンドフェースなどが有る為に非常にかわいらしく見えるビークです。しかし、いざ取り付いてみると、沢の氷壁登攀の経験が、問題なのは内面登攀です。どこを登ってもかならずチムニー・クラックは出て来るので、それ等

を登る機会の少なかった僕などは、大変なものでした。ちなみに、五級のフェースよりも四級のクラックの方が難かしく思えました。キャピサン東壁で、僕等の前をドイツ人パーティーが登っていたのですが、彼等はほとんどのビンにランニングクレイを取り登っていました。それを見て僕等は「あんなにビンにザイルを通したら伸びが悪くなるじゃないか」と言っていたのですが、そのすぐ後に僕は身をもってその理由を思い知らされました。僕は日本でも岩場の一角には日本人部属が出来ており、まるで渾沢にでもいる様な気分になってしまいます。

運動具店で不足な道具を買ひ揃え、ガイヤンの岩場、メールド・グラス氷河で軽く足慣らしをして、現地のクライマーの間にしつかりしたモラルが確立され、それが守られていたからだと思います。特にポルトに対しては相当厳しいものがある様に思いました。この夏に日帰りが出来、又向かいのシャモニー針峰峰の概念がある程度つかめるので、多くの日本人がトレーニングを兼ねて登っている様です。

## 県警山岳警備訓練に参加して

指導委員長 田中 成幸

ぐるり廻りを山にかこまれた群馬県、本州の天候を左右する背稜山脈が、県境の大部分をしめている。そこには色々なケースの山岳遭難が発生し地元受入側の救助、パトロールを担当する警察官の仕事は大変である。

たとは谷川岳や奥利根水源等を管轄する沼田署の遭難事故と、長野県境の草津白根山、四阿山周辺のハイカーやスキーツアーなどの遭難と、又表妙義山のように車で来てレジャー的な気分登山し、足を踏みはずしたり尾根道を間違えたりして起こす事故と、そのケースは多種多様である。

その様な各地区の署から集められた警察官に、登山技術や救助技術を指導するのがこの訓練の目的である。

今年も十一月六日・八日に於いて谷川岳周辺で訓練が行われ、県岳連からコーチとして剣持勝美、西山年秋、樋口宗平と、私の四名が参加した。内容は用具の使用法、岩場の登下、救助訓練などである。訓練を行って、実際に救助に携わっているベテランも何名かいたが多くの人は初めてで、三日間の訓練では大変と思われた。仕事のこと、はいえ、非常に熱心

に訓練を受けられたのには感じることがあった。そして私達登山者側としても計画や行動、遭難対策など今一度考えさせられたことがあった。

## 岳界通信

### 高体連

#### 登山部行事から

高体連登山部には、現在五十校の加盟があり、年間行事計画にそって、顧問を対象に、あるいは生徒を対象としての行事があります。が、本年度は、次のような行事が予定されています。

二月十四・十五日には、尾瀬戸倉で冬山指導者講習会が顧問を対象に予定され、三月末のリーダー講習会(後述)の予備調査、技術研修、立山研修所等での伝達講習などを兼ねて、冬山の基礎技術・山スキー・ミーティングを中心に行なわれます。なお、同じ頃、八日間の予定で立山で、文部省登山研究所主催の冬山指導者研修会があり、二名の参加が予定されています。

三月二十六日・二十九日には、尾瀬戸倉・アヤマ平周辺でリーダー講習会を予定しています。これは、「夏山登山における残雪上の基礎登山技術の習得を中心とし、夏山登山の安全と遭難対策をめざす」という目的にそって、雪上の歩行を中心とし、輪かんじき・シ

生徒一〇二名の参加を、県岳連からも、石井・吉田・高橋の三氏に応援をたのみ、行なわれました。富士見小屋の萩原一氏の好意で、小屋を開放していただき、自炊出来たのは好評でした。

### 昭和四十九年度 第二回関東地区山岳連盟 連絡協議会開く

九月二十九日栃木県烏山市。当日は一部七県より代表者が参加し、次の様な申し合わせを決めた。

一、関東地区登山大会実施に際し登山形式をとるばかりでなく、テーマを決め研修会等同時に実施していく。

一、懇親会形式による会議の実施。昭和五〇年度は群馬県担当で実施することになった。

### テントピーク登頂

柳原重之氏は、神戸商科大学インドヒマラヤ遠征隊の一員として参加し、登頂に成功。十月二十日無事帰国しました。

九月二十三日、五時テントを出る。快晴無風、気温氷点下十度。遠くの山々がモルゲンロートに赤く稜線を輝かせ、裾はまだ群青に沈んでいる。中略、七時間の登攀の末、遂に十二時五十分頂上に立つた。あたりにそれ以上高いところはもうなかった。報告書より

### 秋季遭難救助訓練 実施される

期日 十月十三日(日)  
場所 谷川岳一の倉沢二の沢大滝付近  
天候 曇、時々小雨  
参加者 十九名

秋たけなわの中、恒例の遭難救助訓練を実施した。当日は十一団体十九名の参加と若干少なかったが、小雨の中での訓練は、搬出技術の向上に大いに役立つことが出来た。

尚当日は、終了時間がおくれ、本番さながらの訓練となり、関係方面に御心配かけたこと申し訳なく思っております。

### 編集後記

今回は予定していた広告もスペースの関係でせられず、またせっかく出していた原稿もバツサリ切ってしまった。また原稿が次回まわしになってしまったことなど、編集者も大変でした。この編集後記を書きおわり、時計は十二時を過ぎています。また次回に期待して下さい。……(K)〇遅れに……(K)第2号の会報も、ようやく発刊することが出来ました。今回は原稿が集まり過ぎて大巾にカットしてしまい、写真のスベスベさ無しのままです。太田編集長が中途から不在となり、編集者一同苦勞の連続でしたが、活字主体の構成となり、見ずらい面もありますがお届けします(K)